

平成 26 年度



学校評価

前期教職員版



京都市立嵐山東小学校



学校評価：前期教職員版

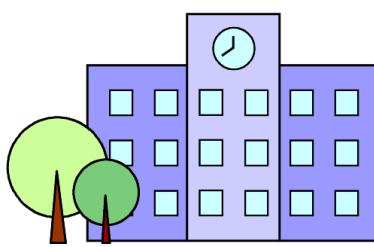


夏休みまでの教育活動を 教職員が自己評価しました

夏休み前に保護者の皆様からいただいた「学校評価：前期保護者版」を受けて
本校教職員が日頃の教育活動を振り返りながら各自の考えを書きまとめました。

「4」よくできている 「3」だいたいできている 「2」あまりできていない 「1」できていない

番号	評価項目	具体的評価	評価			
			4	3	2	1
①	教育目標	学校教育目標や学年・学級目標、生活目標などを意識して教育活動に取り組むよう努力することができましたか。	1	15	2	0
②	重点項目①	～つけたい力を明確にした「言語活動」～を意識して教育活動に取り組もうとすることができましたか。	1	13	3	0
③	重点項目②	～自律心と責任感の育成をめざした「協働活動」～を意識して教育活動に取り組もうとすることができましたか。	3	13	3	0
④	教科等の指導	めあてのはっきりしたわかりやすい授業を意識し、努力することができましたか。	0	13	2	0
⑤	道徳の指導	道徳の時間の充実と指導法の改善（発問・資料提示・指導案・板書の工夫等）に努力することができましたか。	2	10	3	0
⑥	保健・安全の指導	子どもの健康や安全に留意した取組ができましたか。	2	15	0	0
⑦	人権教育の指導	一人ひとりの人権を大切にした取組ができましたか。	0	17	0	0
⑧	家庭との連携	学級通信や学校HP、連絡帳のやり取り、家庭訪問等によって、保護者との連携を深めることができましたか。	2	14	2	0
⑨	職業意識	あいさつの励行や時間・期限を守るなど、職場モラル向上を意識して職務の遂行ができましたか。	3	14	2	0



■次頁以降は上記の項目について「成果と課題」を中心に自由記述したものです。

1. 学校教育目標や学年・学級目標、生活目標などについて（①）

1. 「育てよう 子どもの思い・思いやり」を受け、学級目標を子どもたちと話し合い、次のように決めた。「みんながたのしいクラス・みんながやさしいクラス・けんかをしないクラス・わるいことをしたら、ちゅういするクラス」 まずは、子どもたちがこのようなクラスにしたいというめあてを持ち、みんなで話し合って決めたことに大きな意義があると思う。

夏休み前までの子どもたちの様子を見ていて、残念ながら不十分な面は見られるが、困っている友だちに「大丈夫？」と声をかけたり、手助けする子どもの姿も見られることがある。また、算数や国語の問題、体育の課題ができた時など、「よかった、よかった。」と、自分のことのように友だちのことを喜ぶ姿も見られるようになってきた。

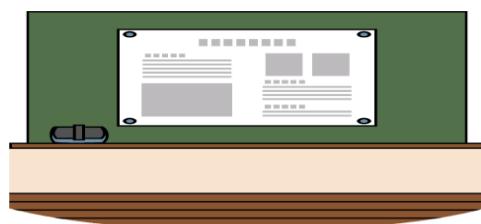
まだまだ課題も少なくないが、子どもと一緒に子どもたちの成長を支え、子どもたちを見守り続けていきたい。

2. 「育てよう 子どもの思い・思いやり」の学校目標に照らし合わせて、子どもたちと話し合い、学級目標を「みんながたのしいクラス・みんながやさしいクラス・けんかをしないクラス・わるいことをしたら、ちゅういするクラス」とした。学級の子たちは、発達段階が様々な子たちの集団で、自分の思いを持つこと自体が難しく、その子の行動で何をしたいと思っているのかを判断している。子ども同士の関わり合いの中で自分の思いが持てるようにはたらくかけている。

3. 学年・学級目標、生活目標については、ふり返る機会を多く設けることで、子どもたちも意識してがんばることができたと思う。しかし、生活目標では、その月はがんばっているが、次の月になると意識が薄れてしまう子もいて、定着させることはなかなか難しかった。

4. 「言葉が変われば、心が変わる。心が変われば、言葉が変わる。」このような言葉があります。子ども達の「思い」を育むために、言語環境を整えようと努力していることが、「思いやり」を育むことにもつながるのではないかと期待して、教育活動に邁進しております。教師や大人の人に対するていねいな言葉遣い、授業中の友だちに対してのていねいな言葉遣いはその一歩だと思っています。

あとは、とにかく褒めることを意識しています。思いやりのあることをした時に担任の言葉で、「えらいね！！」と褒めるのはもちろんのこと、「ホームページに取り上げられていたよ。」「〇〇先生も褒めてくれていたよ。」といいことをしたら、いろいろなところで認めてもらえるものだと子どもに思ってもらえるように伝えています。



5. 学校教育目標に基づいた、めざす子ども像の三つの柱については、どれもまだまだ課題があります。一つ目の「考え方 自分で」については、些細なことでも教師に聞きに来ることが多いです。少し立ち止まって、自分の頭で考えて欲しいと思います。最近は、自分で考えることができる内容についてはあまり対応せず、児童自身で考えさせるようにしています。二つ目の「伝えよう 言葉で」については、自分の思いをうまく相手に伝えることができなくて、トラブルになることもあります。まずは、相手の話をしっかり聴くことが大事だと思います。三つ目の「受けとめよう 相手を」については、行動がやややゆっくりな子、注意が散漫になりがちな子に対して、教師が「そこまで言わんとええのにな。」と思うくらいきつく言ってしまう子がいます。クラスにはいろんな子がいて、それぞれが個性を持っていて、得意・不得意があって…ということを少しでも感じて、もっと広い視野で相手を受けとめて欲しいと思います。今後は「許す力」を身につけさせていこうと思います。

学級目標については、朝の会で毎日唱和させています。その結果、少しでも守ろうとする子はいるかと思いますが、私自身がもっと振り返りの時間をとらなければと反省しています。また5月のチャレンジタイムで、クラスの新ルールを作りました。それも合わせて唱和しています。こちらも効果は少しあるかなとは思いますが、もっと振り返りが必要です。

生活目標についても、さらにふり返りが必要だと感じます。また、「はきものをそろえる」ことがまだまだ課題だと思いますので、こちらが意識して声をかけていきたいと思います。

6. 嵐山東の子のめざす子ども像として「考え方自分で 伝えよう言葉で 受けとめよう 相手を」というものがある。子どもたちは困った時、分からぬ時に担任の助けや言葉を求めてくる。担任側で話を聞き、担任の裁量のみで終わらせる事もできるが、めざす子ども像のように自分で解決していく力をつけさせるためにも、「解決への道筋」をつくるような手立てを日ごろから大切にしてきた。ケンカした時、困ったことをされた時、相手に注意したい時…様々な場面でどうすればわからない児童が多くいた。そこで、「どう言ったら相手に伝わるか」「相手にどうしてほしいのか」「自分はどうしていけばいいのか」などを毎回整理させていった。そうすることで、担任のいないところでも子どもたち自身で困難をクリアしていく様子がうかがえた。

7. 学校教育目標について、少しずつですが子どもの思いやりを持つ姿が見られるようになってきています。年度当初は、小さなやりとりが大きなけんかにつながり、強い口調での言い合いや手を出してしまったような姿が見られましたが、少しずつ相手を思う心が育ってきているように思います。

課題としては、自分の思いを持つことがまだまだ難しいです。少しずつできている子もありますが、そのことを行動に移すことが不十分です。自分の思いを持つことに自信を持ち、人の目を気にせず、行動できるようになっていけるように。思いを持てた時、その思いに合わせて行動できた時に、褒めて自信をつけていってあげることが必要だと考えています。

学年・学級目標については、学年合わせて、毎日唱和させているので、子ども達も自分たちの目標は自覚しているように受け取れます。また、目標を意識している子どももいますが、まだまだ徹底という意味ではこれからです。夏休み以降も、引き続き取り組んでいきます。

生活目標について、月はじめの目標確認の時には、「こんなふうに頑張る。」と全体とし意気込んでいますが、月半ば、どちらかというと教師側が徹底させ切れていない感じでした。毎週水曜日の振り返りがなかなかできなかつたので、今後意識して取り組ませていきます。

8. 目標があることで、ぶれない指導を行うことができ、また児童に対しても「こうでしょ！」と全教職員が一貫した指導を行うことができるためとても大切であると感じます。また、「きらめきタイム」の流れ（感想や質問の交流）や「なかよしチャレンジ新聞」も、そのための具体的な方法として有効であると感じます。それなのに、自身の学級において、それらの達成具合の点検・評価などを、児童を交えて行うということが十分にできていないと感じます。学級目標等は、1ヶ月に1回や、何か全体に指導する必要がある際に行なうことができていますが、その他は、なかなかふり返り、自己評価する時間をとれていのが実状です。めあてを持ち、実践し、その点検・評価を行い、次に生かす（PDCA）が大切であると思うので、実行していきたいです。

生活目標、具体的で、端的で行いやすく、良かったです。また児童会で、「この学校に足りないものは何か」を検討し、自分たちでめあてをもって取り組ませようとする流れも、児童の主体性や意欲から見ても非常に良いと思います。

9. 子ども達がとても楽しみにしている「みさきの家」を、何度も具体的な目標として掲げ、自立と自律を意識させてきたつもりです。前向きで素直な子が多いこともあり、「がんばろう」という気持ちはよく見えているし、個々に成長や変化もあると思います。

けれども、学年として見た時に、もっとまとまりや気持ちの団結が欲しいと感じることも多々あり、学級としても、まだまだけじめがつかずに指導が必要なこともあるので、今後とも、子ども達にとって、できるだけ有意義な指導を考えていきたいと思っています。

10. 「目標」と「目的」は、常に合わせて考えることが大切だと考えています。（「目的」は、最終的な行き先。「目標」は、その途中に設定する通過点。）目的の大切さを教えてくれる、「三人のレンガ積み」という有名な訓話があります。

※「三人のレンガ積み」…中世のとある町の建築現場で3人の男がレンガを積んでいた。そこを通りかかった人が、男たちに「何をしているのか？」と尋ねた。1人目；「レンガを積んでいる」。2人目；「食うために働いている」。3人目；「後世に残る町の大聖堂を造っているんだ！」この時、3人の男たちにとって「目標」は共通；「1日に何個のレンガを積む」「工期までに自分の担当箇所を仕上げる」など。しかし「目的」は3人ともバラバラである。1人目；目的をもっていない。2人目；生活費を稼ぐのが目的。3人目；歴史の一部に自分が関わり、世の中の役に立つことが目的。

（どのレンガ積みが一番幸せだったかは、言うまでもないと思います。）



では、「学校教育の目的」は何でしょうか。

教育基本法第1条には、教育の目的について次のように書かれています。

「教育は、人格の完成をめざし、平和的な国家および社会の形成者として、真理と正義を愛し、個人の価値をたつとび、勤労と責任を重んじ、自主的精神に充ちた心身ともに健康な国民の育成を期して行わなければならない。」

この中で私自身が最も大切にしていることは、「国家および社会の形成者として」というところです。

私が敬愛する内田樹氏は、次のように指摘しています。

「1970年代以降、学校教育の目的は“国民国家の未来の担い手を育てる（世のため人のため）”という公的なものから“自分の付加価値を高める”という私的なものに変わった。」

私たちの社会は、公的な価値を大切にする人によって支えられています。私的な価値を追求する人が一定数を超えると、社会自体が壊れてしまう。私たちの住む国・日本についても、それは例外ではありません。私的な価値を追求する人が一定数を超えると、私たちの社会（日本という国自体）が崩壊する。こうした危機感をもっている人が異常に少ないことを、強く危惧しています。

私は、公的な価値を大切にする「この国を主体的に支えていく人（世のため人のために生きる人）」を一人でも多く育てることが、学校教育の目的だと考えています。こうした意識で日々の教育活動に取り組んでいますが、「みんなのために」行動できる子どもたちの育成という意味では、まだまだ課題が多く残っています。子どもたちの様子を見ていると、「自分でいい」、「自分でいい」、「自分でいい」など。こうした行動に対しては、「それはおかしくない？」という言葉を投げかけ続けています。こうした投げかけを続けてきた結果、少しずつですが、「みんなのために」行動できることが増えてきているように感じます。人間にとっての最高の喜びは、「誰かの役に立っている」という実感であると言われています。子どもたちには、こうした喜びをたくさん感じ、この国を主体的に支えて（世のため人のために生きて）いってほしいと思っています。

11. 今年度は「嵐山東スタンダード」が各家庭に配られたことで、これまで学校のきまり、部活動のきまり、学習のきまりなどそれぞれの立場から出されていたものが、一つになりました。それは、児童や保護者の方々に分かりやすくなったというだけでなく、教職員にも統一された、指導の方針が出されたので、全教職員が子どもたちに同じ指導をことができ、それが子どもたちの成長に大きくプラスされていると思います。

そして保護者の方々からも、「嵐山東スタンダード」についてプラスの意見をたくさんいただいているので、学校と家庭とで連携を持ちながら、子どもたちの姿を学校教育目標に近づけることができるよう努力していきたいです。

12. 4月当初に、子どもたちに学校や学級、担任がめざしていることについて話をしました。子どもたちなりに、様々ある「めあて」が何のためにあるのかを理解しているようです。また、それらは「自分たちのため」にあるという思いをもっている子が多いと、今年は感じることはうれしいことです。学校などの集団生活を営む場所では「きまり」や「めあて」がたくさん必要になってきますが、一方的に押し付けられたものではなく、「みんなが気持ち良く過ごすため」に必要であるという考えが子どもたちに根付くことは、大変意義のあることだと思います。



13. 6年生は学年目標にもある『楽しむ時は楽しんで やるときややる』ということを大切にしながら毎日を過ごしています。『全員が完璧にできている状態』にはまだまだ程遠いですが、『あこがれられる6年生』をめざして日々の学校生活の中で、下級生のお手本となれるよう頑張っていきたいと思います。
14. 学年目標や学級目標だけでなく、生活目標、「嵐山東スタンダード」と様々なかたちが「目に見えてわかる」「ふり返ることができる」ことが良いことだと感じています。生活目標も計画委員や代表委員の子どもたちから出た意見をもとに発表したり、「嵐山東スタンダード」や生活目標について放送委員会の児童が呼びかけをしたりと、子どもたちが主体となって「より良い嵐山東小学校」にしていこうとする取組がこれからも大切だと思います。子どもたちが活躍し、より良い学校生活を送れるよう、継続して声をかけ続け、様々な取組を工夫していきたいと思います。
15. 教職員の子どもに対する、本気で熱い思い（家族や我が子と思うのと同じ気持ち）を持った取組が、アンケートからも学校でお会いする保護者や地域の方々の表情からも、見て取れるように多大な成果が出ているのではないでしょうか。私のように1週間に一度の勤務の者には、学校の空気そのものが爽やかに温かく感じます。教師と子ども、保護者との信頼関係がより一層深まって、子どもの自尊感情も高まる中で、自然と他者を思いやる子どもが増えているのでしょう。
- しかし、子どもは、学校や大人の目が離れるとまちがっていても周りの影響を受けて流されたり、自分を抑えることができなかったりする時があります。誰も見ていなくても「お天道様が見ている」という気持ちを常にもち続け、人にはもちろん動植物にもやさしいまなざしが向けられる人に育ってほしいです。
16. 校門での登校指導で感じることは、以前に比べて随分、人の目を見てあいさつができるようになってきたことです。しかし、下を向いて、元気のない声であいさつをしている子どもたちも見受けられるので、大人が元気なあいさつを心がけ、お手本となるようにしていきたいと思います。
17. 教育目標は明確でわかりやすく、校長がどのような学校をつくりたいか、またどのような子ども達を育てたいのかが教職員にしっかりと浸透しているように思う。その結果、今年度の学校評価アンケートを見ると、いろいろな取組の成果で子ども達や学校が良い方向に変容してきたと感じる保護者が増えてきている。教職員全体で子ども達の共通理解を図り、協力体制をとりながら子ども達を指導できている成果が表れている。
18. 学校教育目標や生活目標について、日々意識して取り組もうとしています。子ども達の自立・自律を促すように、意識した声掛けをしています。子ども達の中にも、自立・自律への意識が芽生え始めているように感じますが、道半ばであると感じます。これまでの取組を見つめ直しながら、教職員が保護者・地域と連携を図りながら取組を進めていく必要を強く感じています。また、私たち教職員が同じ熱い思いをもって取り組んでいくことがとても必要であります。これからも継続して取組を進めていきたいと思います。

2. 重点①～つけたい力を明確にした「言語活動」～について（②）

- まずは、自分の思いや願いを表現できる力の獲得に重点をおいて、教育実践を進めてきた。とりわけ、「話す力の育成」に力を入れ、自分がしたことや思ったことを日直當番（二人）に当たった時に話してもらうようにしてきた。「現在・過去・未来」の認識が不確かな子どももいるため、内容の理解が難しいこともあるが、まずは話し言葉で表現することを大切にしてきた。友だちの話にうなずき、感想を言ったりする場面も見られるようになってきたことを、うれしく思っている。
また、話し言葉だけでなく、歌や絵による表現活動も大切だとの思いから、手遊び歌や詩、絵画の指導にも力を入れてきた。夏休み前には、掲示してある絵を見ながら、自分が工夫したところや友だちの作品ですばらしいと思うところを話したり書いたりもしてきた。
国語の時間、子どもによっては、説明文教材の読解に力を入れ、まずは書いてある事柄を文章をよく読んで理解する活動にも力を入れてきた。朝の会や道徳の時間にも、考えを伝え、友だちの意見に耳を傾けることを大事にしてきたが、まだ不十分であり、今後一層努力を積み重ねていきたい。
- 子どもの話を聞いていると語彙が少なく、話の内容が理解できないことが多い。そこで、まず、言語力を身につけることから始めようと考えている。言語力を身につけるために学習に使う教科書は必ず声に出して何度も読むようにしている。読むことができても、その内容の理解は難しいが、理解できるように話を噛み砕いて説明している。コミュニケーションをとること自体がやや困難な場合もあるが、朝の会・生活単元学習・道徳などで話し合いを持ち、相手がわかるように話す能力を身につけるようにしている。
- 子どもたちにとって、自分の思いを言葉で伝える力をつけていくことは大切なことだと思う。特に低学年の子どもには、用事があっても単語でしか言えなかったり、友だちとのコミュニケーションがうまくとれなくて相手の嫌がることをしつこくしてしまったり、仲間の輪に入れなかったりする様子も見られる。場に応じた話し方を教えたり、「なかよしチャレンジ」をしたりすることで少しずつ力が付いてきているので、続けて取り組んでいきたい。
- ていねいな言葉遣いを身につけることを意識して、言語活動をしています。
例えば、授業中は「はい。…です。」や「〇〇さん对付け足しで…です。」というふうに公の場にふさわしい言葉遣いの習得をめざして練習を繰り返しています。
また、どの子どもも自分の考えや思いを話せるようになって欲しいという願いから、国語の授業では、始まって5分間程グループトークの練習をしています。司会の子どもが「今から〇〇についての話しをします。」と言い、テーマに沿った話し合いが始まります。一人の子どもが発表し終わったら、質問をして答えるということを繰り返す中で、自分の考えていることを話す力や、友だちの考えていることを汲み取ろうという力がつき始めているところです。課題としては、練習を始めたところなので、子どもによっては意見を言うことを恥ずかしがる子どもがいたり、意見をしっかりと聞いていなかったりする子どもがいることです。今後は、グループトークを続けていく中で、全ての子どもが自分の意見や考えをもって友だちに話せるようにしていきたいです。

5. まずは、人の話を集中して聴けることが、言語活動を充実させるための大前提だと考えます。学級でも、それを核として学級経営を行ってきました。

国語科では、「～だと思います。」「～さんと似ていて…」などの話型に気をつけています。算数科では、自分の考えを説明した後、「質問や付けた足しはありませんか?」と言う練習をしています。そして、それを受けた質問をしたり、付け足したりすることを通して、互いに自分の考えを表現し合う学習活動の充実をめざしています。

今後は、相手がわかりやすいような説明の仕方にも重点を置いていきたいと思います。

6. 国語科での音読活動、作文、言葉遊びなど、国語科を基本とした言語活動は常日ごろから行っていた。国語科に限らず、各教科や学級活動の中においても、記録・要約・説明などを積極的に取り入れ、子どもたち自身で考えぬいて表現する力をつけさせていった。例えば生活科では、植物の観察はものに例えながら観察し記録させることや、音楽科の鑑賞では、曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなど、さまざまな場面で「より良い言葉」を選んで表現させることを大切にしていった。スピーチや発表では、表現がどんどん豊かになり、相手に伝わりやすくなっていると感じる。

7. 学習においては、各教科・単元ごとに、ねらいを持って言語活動を行ってきました。成果としては、ある程度、技術として教えていくと、その方法を使って「話す・聞く・書く」ということはできることもありました。しかし、児童の実態に対して、活動内容が難しかったこともあります。ねらいや手立てを見直す必要があると感じています。

生活面では、話を単語で終わったり、ていねいに話すことが難しかったりします。全体指導もしますが、その場面場面で指導しないと子ども達にとってはどこを変えていいのかわかりにくいようです。

子どもの姿の変容がすぐに見られるものではない分、教師側が日々意識して継続的に今後も取り組んでいきます。

8. 特に国語科において「つけたい力は何か」を明確にし、そのゴールから順々に、必要な指導内容を検討しスタートに向かう学習計画を立て、その計画に応じた「単元を貫く言語活動」を設定し、取り組むことができました。途中で意欲が減退することなく、最後まで取り組むことができた児童の姿勢を見ていると、有効だったと感じます。具体的な言語活動例を指導要領の解説等を熟読し、より児童の意欲が高まる授業設計に努めたいと思います。

9. 人のコミュニケーションという意味では、日々、大事にしたいと思いながら指導していますが、改めて「言語活動」といわれると、毎日の学習の中で意識して取り入れることに反省と課題を感じます。毎日の授業の中に、具体的な目標をはっきりと持っていられるようにしたいと思います。



10. 言語活動で大切にしてきたことは、「とにかく言葉にさせる（話させる／書かせる）」ということです。人は、言葉にする（話す／書く）時、「すでに知っていること」を言葉にする（話す／書く）訳ではありません。言葉にしながら（話しながら／書きながら）、自分が何を言いたいのか、何を知っているのかを「発見」するのです。（このことを初めて聞いた時、「なるほど！」と膝を打ったものです。）つまり、考えてから言葉にしようとするには無駄が多く、考えるためには、（考えが浮かんでいないうちから）言葉にしていくことが大切だということです。

言葉にする時に大切なのは、はじめから質を問わないことです。自分で何も思いつかない場合は、友だちの言葉を真似するように何度も伝えています。（「学ぶ」の語源は「真似ぶ＝真似をする」だとも言われています。）友だちの言葉を真似できるよう、「早くできた子に言わせる」「黒板に書かせる」などを意識的に行ってています。そして、真似をしてでもとりあえず言葉にし始めると、次第に自分の考えを「発見」するようになるのです。子どもたちは、皆の前で発言したりノートにたくさん書いたりすることに、次第に慣れてきています。これからさらに言葉にすることを繰り返すことで、自分の考えをたくさん「発見」していってほしいと思っています。

子どもたちにしばしば、本を読むことを勧めます。私は、素晴らしい本との出会いを通して見える世界が変わった経験が何度もあり、子どもたちにもそうした出会いを体験してほしいからです。保護者の方の中にも、「もっと本を読んでほしい」という方は毎年いらっしゃいます。そうした中で、今年はとても嬉しいことが続いています。それは、「本を借りてもいいですか。」と言って、保護者の方が（何人も！）本を借りて行かれることです。「よかったです、この本読まれませんか。」と言って本を貸してくださった方もいらっしゃいます。こうした大人の姿勢は、必ず子どもたちに伝わります。本が好きな保護者の方がいらっしゃることは、私としても非常に嬉しく思っています。

11. 4月当初、授業中の発表の中で、単語で発表する児童や他の児童の発表を聞いていない児童がいました。そこで、学年で話型を作り、発表の時の話し方や聞き方を意識できるようにしていきました。子どもたちは前に発表した人の内容をよく聞き、次の自分の発表に取り入れができるようになります。話す力と聞く力を少しずつつけることができてきています。夏休み明けからは、話し合い活動を多く取り入れ、グループの話し合いの時にはどうしたらよいのかを考えられるようにしていきたいと思っています。

12. めあてがはっきりしていないと、手立てや評価も曖昧になってしまうのは当然のことです。どんな活動でも、つけたい力を明確にすべきでしょう。

しかし、実際の活動をふり返ってみると、めあてがぶれてしまうことも少なくありませんでした。また、単発的な活動では定着するまでには至らないことが多かったです。継続的に取り組み、習慣化させていく工夫も必要だと感じています。



13. 授業の中で、グループでの話し合い活動を増やしたり、算数の授業では説明を子ども自身がする場面を増やすなど、子どもたちの『言語活動の場』を増やしていく取組をしています。どうしても『自分の考えをわかりやすく周りの人伝えれる』(算数で言う考え方) ということが苦手なようで、特に『わかりやすく』の部分に課題があります。『自分で考え、話す』ということを大切にして、今後の授業を展開していきたいと考えています。

14. 「なかよしチャレンジ」や「きらめきタイム」などでの取組を通して、自分の思いを伝えることや相手の話を聞くことについて、実践したり考えたりする機会が持てて良かったと思います。やはり、そのときだけの取組ではなく、日々「きき方」や「伝え方」についてふり返り、伝え続けることが大切だと感じています。相手を意識し、言葉を選んで話したり相槌を打ちながらきいたりすることは、まだなかなか難しいですが、私たち大人が意識して続けていくことが着実に子どもたちの力につながると信じ、話し合いや伝える・聞く時間を充実させていきたいと思います。

15. 良好的なコミュニケーションを図るために、思いや考えを表現する為の語彙を豊かにし、表現力を身につけることがとても大切です。そのために授業においては、ペアやグループ内での伝え合いの場を重視したり、「なかよしチャレンジ」の時間を設けたりするなどの取組で、全体の場で堂々と発表できる子どもが増えてきました。

「きらめきタイム」は、勤務の関係で昨年度に1度見ただけですが、アンケートを見て、いますと『是非出たい』と思っている子どもが多く、憧れの行事であり、やる気を育てる取組だと思います。

朝読書が始まると朝休みの子どもたちの元気な歓声がうそのように消え、学校全体が静寂に包まれるようになってきたのは、教職員だけでなく、ぱたぽんさんの地道な読み聞かせや図書館整備をしていただいている方たちのおかげだと思います。

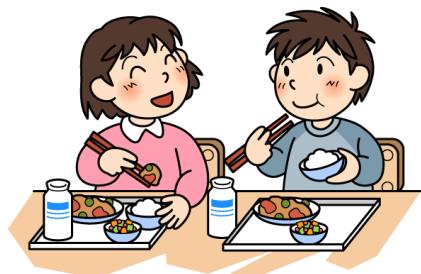
16. PTAと連携してあいさつ運動の啓蒙に取り組んだり、職場モラル研修から教職員自ら大きな声であいさつをするように心がけたりした結果、あいさつする児童は少しずつ増えてきた。また、職員室に出入りする時のあいさつの仕方について指導の徹底を図り、以前は黙って入って来た児童も、名前や用件を言えるように改善してきた。しかしながら、あいさつをしているものの声が小さいとか、教職員や地域の方が声をかけても返事をしない児童もいるので、気持ちの良いあいさつの仕方について継続して指導していきたい。

「きらめきタイム」を実施する中で、発表児童は、自信を持って発表することができるようになってきた。全体的にしっかり話を聞けるようになってきたが、発表した児童に対して自分の思いや考えを言える児童は限られている。コミュニケーション能力のさらなる向上に向け、授業の中で話し合う機会を増やしたり、結論と理由を述べる取組をさらに充実させたりすることが必要ではないか。さらに、発表した人に対して、反応すること(意見や考えを返すこと)が相手の人権を大切にすることにつながるということを伝えたい。

今年度から図書支援員の山本先生が本の整備をしてくださったり、選書会をして図書室の本の拡充をしたりして図書館教育のさらなる充実を図っている。読書アドバイザー「ぱたぽん」の読み聞かせの参加人数が少ない日もあることが気がかりで、今後は輪番制を採用して参加者を確保する体制をつくることも検討していきたい。

17. 書き言葉については、各学年で様々な機会に「書く」取組が取り入れられています。これらを交流しながら、より「書く」活動を取り入れていく必要性を感じます。

話し言葉については、T P Oを考えた話し方・人に伝えたい時の話し方をより意識した取組を進めていきたい。子ども達の言葉を聞いた時にその場で指導する。「なかよしチャレンジ」のように、事前にこういう時にはどういう話し方がふさわしいかを教える活動を強化していく必要性を感じます。



3. 重点② ～自律心と責任感の育成をめざした「協働活動」～について（③）

1. 協働活動については、育成学級の実態をふまえて述べることにしたい。あおぞら学級は、二人の担任が「子どもたちの健やかな成長と発達保障」という目標を共有して日々実践している。担任それぞれの持ち味を生かしながら、互いに自主・自律性を確保し、互いに補完し合いながら進めている。責任についても、互いに責任を共有し、互いを尊重しながら進めている。

6人の子どもたちは、それぞれ発達段階が違い、個別学習を軸に学習を進めているが、日常生活の指導や生活単元学習において6人一緒に授業を行うこともある。それらのことにより、自分の学習と互いの学習を高めていきたいと考えている。併せて、子どもたちに自律心と責任感を培っていきたいと考えている。

2. 学校のきまりや社会の基本的なルールを守らせるために、本人にはできるまで何度も声かけをしている。なぜそのきまりがあるのかを分かるように噛み砕いて説明をして意識して行動できるようにはたらきかけている。「協働活動」がなかなかできない。ひとり一人に責任のある活動をさせてるので精いっぱいの現状である。生活単元学習で野菜作りをしているので、その時に協働活動をさせていきたい。

3. 低学年の子どもたちは、仕事やお手伝いが大好きです。責任感とまではいかないかもしれないけれど、最後までがんばってできていると思う。自律心については、これから是非身についていってほしい力だと思うが、まだまだ自分中心の言動が多いので、今後どんな協働活動をしていけばいいのか考えていきたい。

4. 自律と責任感の育成に一番有効なのは、「ぴかそ」ではないかと思っています。「ぴかそ」では、月単位で掃除場所を固定し、自分の担当の場所は絶対に自分がキレイに掃除しなければいけないという環境を作っています。そうすることによって、子ども達は責任感をもって掃除に励むようになってきました。また、一回、一回のふり返りを大切にして、自分の言葉で今日の掃除について語らせることで、子ども達は自己を見つめ、「次はこうしよう」と考えるようになってきました。

5. 学習規律や生活指導などの規範意識の徹底を、「嵐山東スタンダード」に則って図ってきました。その結果、だいぶ意識するようになってきましたが、担任の目がなくても、もっと自然にできるようになって欲しいと思います。小学校という小さな社会の中で、ルールを守ることが当たり前であり、そのことが集団生活を送る上で最も重要だということに気づき、大人への階段を一步ずつ着実に上ってほしいです。

また、近年スマートフォンの普及により、情報化が急速に進む中で、LINEなどの勝手の良いコミュニケーションツールが原因でトラブルが起きています。情報モラル学習を充実させることによって、他者を傷つけるような言葉を発信しないようにし、「正しい判断力」を身につけさせなければならない時期に来ていると感じます。

6. 今年度も異学年交流があり、子どもたちは自分の立場などを意識しながら、より良い関係を築きつつある。たてわり活動では、1～6年生が一緒になって班活動するため、相手の気持ちや考えを尊重していかなければならぬ。子ども同士で話し合いを進めるにあたって、「1年生にもわかりやすい遊びをしてあげた方がいいんじゃない?」「ねえねえ、〇年生は何がしたい?」など、うまく全体をみんなでまとめようとする姿がどの学年にも見られた。

また、清掃活動「ぴかそ」では、話さずやるべきことをしっかりとやろうとする姿が見られる子もいる。一方で、約束を破り、なかなか進んで掃除ができない子もいる。その子たちは、「なぜやるのか」という理由を理解せずにしているところがある。今後も、何事も「何のため」かを考えさせていきたい。

7. 子ども達は、おおむね学校のきまりや社会のルールは守るべきものとしてとらえています。また、きまりやルールを守っていない友だちがいれば、「いけないことはいけない」と声をかけることもしていました。また、友だちと協力したり、困っている子がいれば自ら助けてあげたり、教えてあげたりする姿も見られました。

今後の課題としては、「わかっていたけれど…。」という面があるので、自分の感情や欲望に負けることなく、正しい判断ができるように、日頃からの規範意識を高めていくため指導をしていきたいです。

8. 「自分が正しいと思うことをしよう」「どうしてそれしたの（してしまうの）?」と、他律（叱られるからやめる）ではなく、自律（どうして自分はこれをてしまうのだろう）につながる指導の徹底を図りました。また集団とは、個が集まつたものであり、結局一人ひとりが自分の役目や責任を果たす、自制・自律することが、集団生活の根幹であることを全体指導の場で徹底して伝えました。その大切さを理解し、自身で声をかけあったり、まとまりを持とうとしたりする、また自身がうっかり誤ってしまった際に、他者から声をかけられて正し、まとまろうとする「個より集団」を重んじる姿も見られるようになったと感じます。一部まだ自制ができない児童も見られますが、周囲の様子を見、共に生活する中で社会化していくと考え、今後は「待つ・見守る」姿勢を大切にしたいと思います。



9. 高学年としての意識は、個々に確実に芽生えてきていると思います。そして、教師や友だち、クラスの中での約束や役割など、「責任感」というものに関しても、かなり力を入れて指導したいと考え、取り組んでいるところです。提出物や失敗後の態度など、日々その度に、いずれ自分の人脈や信頼につながることを伝え、子ども達にも、意識付いてきている途中段階だと感じます。とは言え、全員とはまだまだ言えないので、掃除や自習、休み時間などの、それぞれが自分で考えて行動しなければならない時間で、ほめていけるような状況を自分が仕組んで作っていければと思います。

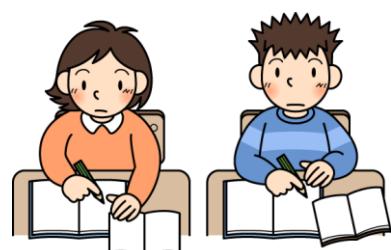
10. 「協働」とは、主に「進むべき目標の共有」「力を合わせた活動」の二点を指すと言われます。学校教育における「協働活動」の中で一番大切なのは、日々の授業に他ならないと考えています。授業中にみんなで学習することで、それぞれの良さを生かし合い、小さな成長を重ねていく。「授業が楽しかった」「がんばった」という声がたくさん聞かれるようになったことは、私としても非常に嬉しいことです。ただ、「進むべき目標の共有」という点では、まだまだ不十分であることが多いです。「進むべき目標の共有」ということを、さらに意識していきます。

また、そうした日々の授業よりダイナミックな「協働活動」が、学校行事だと考えます。運動会については、たくさんの保護者の方から好意的なご意見をいただいている。こうしたご意見を活力に、さらに充実した学校行事を目指していきます。

11. 行事では、組体操や山の家の活動を通して、子どもたちの変化を感じることができました。それぞれの取組の中のめあてが子どもたちにわかりやすく伝わり、自分たちが今やるべきことは何なのかということが、明確だったからだと思います。日々の活動の中では「ぴかそ」などの特別活動の時間に協働活動を意識できます。学校の中に、協働活動を行える場は多く存在するので、教職員が、その活動の意味やめあてを明確に子どもたちに伝えることができれば、子どもたちの意識を変えることができると思うので、昨年度から始まっている多くの取組からつけることができる力を、教職員がもう一度確認し、子どもたちに伝えていけるようにすることで、もう一つレベルアップすることが出来ると思います。

12. 5年生は運動会と長期宿泊学習という大きな行事を通して、様々な成長を感じることができました。この2つの行事で、成長につながった理由は何かと考えてみると、そこには「協同活動」が存在したからではないかと思います。心や力を一緒に合わせて取り組んだ体験は、道徳的価値の大切さを自覚する絶好の機会となりました。この「道徳的価値を自覚できる体験」こそ、「学びを生活に活かしていく」一つのポイントになるのではないでしょうか。

大きな行事が少ない時期にも、いかにしてそのような「道徳的価値を自覚できる体験」を仕組むかが大切であり、自問清掃「ぴかそ」の時間やたてわり活動などの特別活動を有効に活用して、体験の中で自覚できる機会を十分に作っていき、児童の成長につなげたいと考えています。そのような日々の体験を通して、個が育つことで集団が育ち、集団が育つとその中で個も伸びるという、良い循環をつくっていきたいです。



13. 自問清掃「ぴかそ」の中で、自分の役割が終わった後に、ぞうきんがけにすぐ取り組む子もいれば、人数が少ないグループの手伝いをしてくれるなど、『周りを見て考えて行動する』ということが少しずつできている子どもが増えてきているように思います。その様子を6年生全体に広げられるようにどんどん声かけなどをしていきたいと思います。

14. 子どもたちが「良いお手本になりたい」という思いをもって挑戦し、がんばる場面・機会が増えてきていると思います。たてわり活動や自問清掃「ぴかそ」、委員会活動などを通して、「他の学年のみんなが楽しめるように」「自分たちが見本になる!」「進んでやろう」という前向きな気持ちで取り組めることが素敵なところだなと感じています。また、「遊びたいけどぴかそやし」「自分は○○したいけど低学年の子も楽しむために～しよう」など考えて行動できることも多くなってきました。

しかし、そうした思いは持っているものの、「自律（自分を律すること）」ができない場面もまだあるということを子どもたち自身も感じています。完璧ではありませんが、できていることとまだできていないことを大人も子どももしっかりと見つめ向き合ふことで、さらに成長できると思うので、できていることはきちんと認め自信をもち、できていないことは原因やどうしたらできるようになるのかを考え、ふり返り活かしていくことで互いに気持ちのよく過ごせる集団にしていきたいと思います。

15. 『嵐山東スタンダード』は、子どもにも保護者にも、そして、教職員にも共通に認識できるものとして目に触れるように掲示してあり、全校体制で徹底できるので有り難いです。

異学年との交流（たてわり活動）が今年度から再スタートし、1回目の様子を見ることができました。6年生が読み聞かせをし、目を輝かせて聞いている下学年の姿はとっても素敵でした。高学年は、頼りにされているんだという気持ちから主体的に活動しようという意識や責任感が生まれ、低学年はその姿を知らず知らずのうちに身につけていくのでしょう。次回の活動が楽しみです。

2年目の『ぴかそ』は、一段と磨きのかかった取組になっています。子どもも先生もお互いに信頼しあって黙々と掃除をする姿は、他の学校では見られない光景です。学校もすみずみまできれいになり、学習環境が整ってきました。

16. 自問清掃「ぴかそ」は、子どもたちが「がまん玉」「しんせつ玉」「みつけ玉」を磨くことを通して、掃除にしっかりと取り組むことができる児童が増えてきた。しかしながら「公園でゴミを平気でほかしている児童がいる」と地域の人から指摘があるように、本来のねらいである自発性・自律性はまだ十分育っているとは言えないのが現状である。今後も各学級での振り返りを大切にしながら、児童の心を育てていきたい。

今年度から「なかよしチャレンジ」は低・中・高で授業参観を行い、各学級の実態に合わせてどのような話し合い活動をしているのか研究できる体制が整っており、交流を深めることができていいと思う。研究である道徳の内容とも関連付け、さらに児童の理解が深まるように、そして行動化へつながるように工夫していくことが大切である。

17. 高学年を中心とした「あこがれられる高学年」の取組が、徐々に自律心や責任感を育てていると感じています。低中学年の子たちに、高学年の子たちのがんばりを積極的に知らせ、高学年の子ども達と低中学年の子たちとの協働活動を進めていきたい。

4. めあてのはっきりしたわかりやすい授業の実践について（④）

1. 「めあてのはっきりしたわかりやすい授業」は、教師として大切にしなければならない重要な課題の一つであると考えている。そのためにも、子どもの健康状況・その日の子どもの気分感情を十分に把握しておくことが重要であると考えている。昨年度までの子どもの実態のデータはあるが、子どもの実態をリアルにつかむ重要性を改めて感じている。
教材や教具の工夫、パソコンを含めた視聴覚教材の活用をさらに進め、子どもたちが「やったあ、できた！」という喜びを積み重ね、自己肯定感を培っていきたい。
2. 朝の会で一日の流れの確認をしておく。授業の初めには学習の流れを示し、めあてをつかませてから学習を始めている。しかし、その時の気分で授業が始まられない時が多い。体を動かしたり気分転換をしたりしながら、気持ちを切り替え、時間をかけて授業に入るようしている。また、学習内容は興味を持てるように工夫していきたい。
3. 「楽しかった、もっとやりたかった。」と子どもたちがいきいきとしている授業もある一方で、姿勢も崩れてしんどそうにしている授業もあった。低学年の子どもは、いろいろなことに興味を持って取り組むことができるので、その意欲を大切にして授業を進めていきたいと考えている。子どもたちの実態を踏まえつつ、今日の授業ではこんなことをするのだというめあてや見通しが持てるように進めていきたいと思う。
4. 学校生活において、授業に慣れさせるために、授業の内容は違っても、毎回同じような授業の流れをとっています。例えば、算数なら「フラッシュカード」⇒「今日の問題」⇒「練習問題」、国語なら、「聞きとりクイズ」⇒「グループトーク」⇒「音読」⇒「書きとり」など。子ども達は、授業の流れは分かってきていると思うので、今後は1時間1時間のめあてをいかにして達成するかをより一層考えなければいけません。
5. 1時間の授業のめあてを考えるときは、なるべく誰もが読んでわかりやすいものにしています。そして、授業の所々で、めあてにかえるようにしています。今後は、振り返りの時間をもっととれるような授業展開にしていきたいです。
また、わかりやすい授業とは直接つながらないかも知れないですが、子どもが興味関心を引くような導入を取り入れたり、その授業が児童自身の身近な事柄と結びつくような仕掛けをしたりして、「今日の授業はおもしろかった。ためになった。」と思ってくれるような授業をめざして日々精進していきたいです。



6. めあてという訳ではないが、教室の前に置いてある「一日の時間割」の書き方に気をつけた。「1 算数 2 国語」など時間割を書くのはもちろんこと、「1 算数（ひっさんの書き方） 2 国語（新出漢字と漢字の広場）」など、具体的に何をするのかを常に子どもの目に入るようにした。子どもたちは、時間割のめあてを見て授業の準備をしたり、心構えをしたりする姿が見られた。見通しを持って一日を過ごすことで、こんなにも児童はスムーズに動き、生き生きとするのだと感じた。

前期で特に気をつけたことは、「めあてを具体的に」して指導することである。算数科などでは、いつも欲張って指導してしまい、子どもも一緒に疲れることが以前はあった。「今日は筆算のくらいをそろえることを覚えましょう。」「お話づくりは、話がつながるように はじめの部分を書きましょう。」など、やることを広げすぎず、どの児童の発達段階にも合った指導内容を1時間で進めるように心がけた。子どもも、やらねばならないことはわかっているので、最後に達成感をもてる事も多くなった。「そんなん簡単やし！」「すぐできたわ～。」と子どもは言っているが、その簡単という言葉が、実は自信につながっているなど日々感じている。今後も自信をつけさせ、さらに上をめざす意欲を高めるようにしたい。

7. 各時間、めあてを意識して授業は進めてきました。その中で、授業の進め方として、パターン化することで、ある程度、子ども達は見通しを持って学習に取り組みやすくなってきていたと思います。課題としては、手立て（具体物や掲示物、フラッシュカードなど）がまだまだ不十分だったことです。必要な手立てが準備できている時の子ども達の反応は、国語や算数の複雑な内容でも「難しかったけど、わかって楽しかった。」と返してくれます。そのような授業が少しでも増えるように、授業の質を上げることができるように日々の準備を心がけていきます。

8. 毎授業・毎時間めあてを提示し、45分の授業後に「この1時間で何を学んだか」「解決できたか」「身についたか」と、児童自身が、自身の成長を実感できるよう努めました。しかし、ふりかえりにおいて、そのめあてに沿った内容が書けていなかったり、他の「自身の成長」について書いていたりする児童も見られます。授業の導入（問題提起）が十分でなかったり、声かけが不十分であったりしたことの一因として考えられるので、発問や板書の精選に努めます。

9. 授業に関しては、正直、一番悩むところです。とにかく子ども達が「わかる」でも「おもしろい」でも「できるようになった」でも、「好きでも嫌いでも、同じ過ごさなければならない授業時間に、何か一つでも意味が見出せるといい…。」と思いながら毎日行っています。

その一つの手段として、めあてがはっきり分かっていることは、子ども達の反応も違います。苦手や嫌いのある学習でも、しっかり充実した時間とするために、まずは常に意識しておきたいと思いました。



10. めあてのはっきりした分かりやすい授業をするためには、明確な発問（※「発問」＝子どもたちの理解力や思考力を鍛えるために、答えを知っている教師が、問い合わせの形をとって質問すること）・明確な指示（※例；「ノートに書きなさい」「隣の人と話し合ってごらん」「考えたら座りなさい」など）が大切だと考えています。発問と指示を合わせて行なうことが当たり前にできるようになります。子どもたちにも「今、何をすべきか」ということが伝わるようになっています。しかしながら、まだまだ私の言葉が多いと感じています。（言葉が多いほど、子どもたちの集中が続きにくくなる。）無駄な言葉をどれだけ削れるかが、課題の一つだと考えています。

授業は、心地よいリズムとテンポ、活動を中心にして組み立てることを意識して行っています。（私が尊敬する先生は、「説明を作業に変換する」と言われます。「子どもたちは、説明しても分かるようにならない。説明を作業に変換することで、作業を通して分かるようになる。」と。）その結果、前向きに授業に向かう時間が増えてきています。「分からなかったのが分かるようになった」という声がたくさん聞かれるのは、とても嬉しいことです。とは言うものの、いつもいつも良い授業ができているわけではないし、全員にとって分かりやすい授業ができるかといえば、まだまだ課題はたくさんあります。今後も、より良い授業について学び続けることで、授業力の向上に努めています。

11. なかなか人の話を聞いたり、落ち着いて学習に集中したりしにくい子ども達もいるので、子ども達が関心をもつような材料の準備や、わかりやすいような視覚的支援を用意するように心がけました。何を勉強するのか、何がわかれればいいのかということを明確にすることで、子どもたちも見通しをもって学習できるのだと思います。学ぶことの楽しさを感じられる授業にするために、めあて・ねらいをはっきりさせたいです。

12. 授業の最初には「本時のめあて」を確認するようにしていますが、手立てが十分ではなく、分かりにくいものになってしまったこともあります。授業はやっぱり、子どもたちが「楽しい」と感じられるような工夫が大切です。昨年の学校評価でもありましたが、まずは「教師が楽しそうに授業をする！」の実践を続けていきたいです。

13. 基本的にどの授業でも『課題』という形で『自分たちがこの授業の中でどんなことを学習するのか』を提示しています。それに対して『自分がその課題に対してどんなふうにがんばるのか』という『めあて』を考えることを大切にしています。

『自分が今日どんなことを学習するのか』『その課題に対して自分がどのように取り組むのか』を明確にすることにより、より自分自身の学習に対する取り組み方が向上します。このことを大切に夏休み明けも、授業を展開していきたいと思います。



14. どの教科の学習においても、何を学習するのかということや自分がどんなことをがんばりたいのかということがはっきりすることで、見通しをもって意識的に学習することができると思うので、各授業時間の学習課題や学習課題に対する個々のめあてを設定し交流する時間を大切にしています。一人一人が自分のめあてを持って学習に臨むことでふり返り（自信や課題の発見）にもつながると考えています。また、ノートを分かりやすくていねいにとることも意識して指導しています。めあてをもって取り組むことやノートをていねいにまとめる力が少しずつつづいてきているので、より学習課題に迫るようなめあての設定や交流ができるように工夫していきたいと思っています。

15. 6年理科の授業では、今日のめあてを必ず板書して、授業のねらいを明確にした授業を行うように意識している。また、最後に黒板を見れば今日の授業の流れがわかるように板書の工夫をしている。今、理科離れの子どもたちが増えていると危惧されているが、自然科学の不思議に興味・関心が持てるように教材研究を深め、楽しい授業が展開できるように創意工夫していきたい。

16. 学習のめあてが、板書に示されている授業が増えてきている。子ども達にどの時間でもめあてを示した状態を展開できるように、意識統一を図っていきたい。



5. 道徳の時間の充実と指導法の改善

(発問・資料提示・指導案・板書の工夫等)について (5)

1. 指導主事からも助言を受けたが、「育成学級での道徳の授業はなかなか難しい」ものがある。まずは、自分の思いや考えを発表し、友だちの意見を聞きながら、自分の考えを構築していくものだからであると思う。発達段階も違うので、「考えを練り合う」までは到達していないが、自分の意見を発表し、友だちの意見を聞く活動までは、できるようになってきた。

子どもたちにどのような教材を提示するかが一番大切であると思うので、絵本なども活用し、教材の開発に力を入れてきた。あわせて、純粹に「道徳」とは言い難いが、ソーシャルスキルワークを学習し、子どもたちに市民道徳の徹底がなされるよう、努めてきた。

2. 指導内容は一ヶ月にひとつにして同じ内容を続けてすることで、内容が理解しやすいようにしている。資料提示は絵本を使うことが多い。シリーズもので登場人物が同じものにする話がわかりやすいようだ。話が長くて理解しにくい内容の時は、読み聞かせの時に動作化を取り入れたりペーパーサートを動かしたりして興味を持たせてきた。気持ちカード・フラッシュカードで自分の思いを選ばせているが、難しいようだ。発問の仕方を工夫したい。

3. 「夢いっぱい」の資料を使って授業をすることが多かったが、子どもたちは「今日の道徳はどんなお話?」と、楽しみにしている子もいた。しかし、発問やワークシートなどが子どもの実態と合わなかった時もあり、もっとしっかりと練ってから授業を進めるようにしていきたいと思う。

4. 低学年ということもあり、板書では特に「見ただけで内容が分かるように」を心がけて、授業をしています。また、授業に入り込めるように具体的な物を使ってみたり、写真を貼り出したりして、興味が湧くように工夫をしています。今、グループトークの練習をしていますが、今後は道徳の話し合いの時間でもグループトークを活用し、より一層、子ども達の意見や考えが深まるような授業作りをめざしていきたいです。課題としては、まだ道徳の授業に対して受け身になっている子どもがいるということです。お話の中の出来事と自分の実体験をいかにして結びつけることができるか。それが今後の課題となりそうです。

夏休み前の振り返りアンケートで、「道徳が好き」と答えてくれた子ども達がいて、嬉しい気持ちになりました。

5. 昨年初めて道徳を研究として1年間学んできました。資料提示のタイミング、指導案の作り方、板書の仕方などの基礎・基本的を指導主事に教わりました。今年は教わったことを念頭に置いて授業展開を考えているつもりですが、まだまだです。もっと研鑽を積み重ねていきたいです。

6. 児童に話が伝わりやすいように資料の充実に努めた。特に、昔話などの資料は難しい言葉や情景が描かれるため、児童には想像しにくいものもある。視覚的な資料提示を大切にしながら、イメージをつかんでいけるようにした。児童からも、「今日はどんなお話かな。」「誰が出てくるかな。」という言葉も聞こえてくることも多く、話自体を楽しみにしている姿が見られた。

また、道徳の時間だけで学ぶのではなく、日常生活でも学習テーマを取り上げることを心がけた。児童も一つ一つの話をよく覚えており、話に似たような場面に遭遇すると、子ども自ら「あ！ウソつかないで正直に言った方がいいんやった！」「モノ大切にしな、夜おもちゃたちが会議するで。」など、道徳の時間の学習を自分におきかえて考えられるようになってきている。

板書については、つい児童の発言を全て書こうとしてしまい、黒板いっぽいになってしまことがあるため、大切な言葉を残しながら板書していきたいと思う。

7. 今年度より、初めて道徳を研究として取り組みました。正直なところ、自分一人では毎週1時間の授業の準備（フラッシュカードや挿絵など）が難しかったのですが、同じ学年で共有してもらえたので、とても助かりました。帰りの会の発表で「今日の授業で〇〇について考えたことが楽しかった。」と言う子どもが毎回のようにいて、しっかりと準備できていると子ども達もそれだけ授業に乗ってくるということを実感しました。

今後の課題としては、これまで一部の子どもが発表できていた、他の子どもはワークシートに書くのみとなっているので、学級全体としての交流ができるようにしていきたいと思います。そのために、スマールステップで「ペア」→「グループ」→「学級」と少しずつ慣れていき、友達の意見を聞くことができるようにしていきたいと思います。



8. 每授業資料やフラッシュカードを準備し、中心発問を精選し、言語活動場面を設定し、取り組むことを意識し、行っています。しかし時間配分が上手くできず、後段での児童同士の交流の時間が縮まってしまったり、終末が不十分になってしまったりすることがあります。「児童にこんなことを考えさせたい」ということを全てやろうとするとやはり時間が足りなくなってしまうので、主題や価値項目に応じて発問や思考させる場面を精選し、45分でねらいを達成できる授業の充実に努めたいです。

4月に年間計画を立てる際に、行事や「なかよしチャレンジ」を念頭に置き、有機的に取り組めるよう努めたことで、相互のつながりが見られたり、関連して考えたりできていた児童が見られました。

9. 道徳に関して、まだまだ勉強と実践不足を感じます。自分の反省・課題です。子ども達は、わりと道徳が好きな子も多いようなので、しっかり応えられるようにしたいです。

10. 道徳の時間については、子どもたちが「新しいものの見方」に気付くことができる授業をめざして試行錯誤を続けています。子どもたちがお互いの見方について話し合う活動を増やすことで、道徳的な価値に気づく子が増えることをめざしています。私自身、道徳の時間は子どもたちの考え方方がよく見えるので、楽しみな時間です。子どもたちが、「今までの自分の考えは偏っていた」ということにたくさん気づいていくことを願いながら、今後も道徳の授業に取り組みます。

11. 道徳の時間の指導法については、まだまだ改善すべき点が多くあります。ただ、子どもたちは道徳の時間を意欲的に取り組むことができています。国語や算数が苦手な子も、自分の生活経験から考えることができ、関心・意欲を持つことができています。それを、日常生活の中で道徳的価値を見出せるように、学年でも授業案を練り、子どもたちが考えやすいように、授業づくりを進めていきたいです。

12. 本校では、道徳の研究を始めて2年目になりますが、道徳的価値観や実践力は道徳の時間だけで育てるのではないことを改めて感じることができました。さらには、道徳の時間に養った道徳的判断力や価値観と行事などの特別活動での体験とを有機的に関連させることができれば、より効果的に学びを生活に活かすことができることも実感することができました。道徳の時間の学びがふだんの生活に活きてくるような指導をこれからも研究していきたいです。

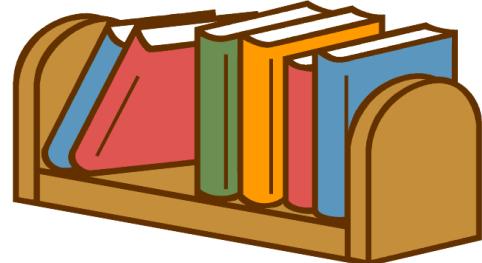
13. 正直なところ、授業の導入、展開、板書や資料など、もっともっと取り組む必要があると思う。もっと子どもたちにわかりやすい授業を展開し、子どもたちの心に響く学習となり、子どもたちが優しさあふれる集団になっていてほしいと考えています。



14. 研究授業や研修会などを通して、発問や板書、ワークシートの工夫などについて話し合い、多くのことに気付くことができました。そして、まだまだたくさんの可能性があり工夫すべきところできることは多いと感じています。現状では、理解はできるが自分のこととして考えるということがなかなか難しいように思います。指導法を改めて検討し、学んだことや話し合ったことを、一つ一つ子どもたちに返していきたいと思います。そして、子どもたちの心に残るような授業作りをしていきたいです。

15. 道徳の研究授業では事前授業の時と比べてかなり授業の質・内容とも改善工夫が見られ、事前授業の話し合いの成果がかなり生かされていると実感している。子どもたちに道徳的価値を考えさせる資料として読み物資料を中心であるが、映像資料を活用したり、人物の生き方に焦点をあてたりして話し合う手法に挑戦してみるのも新しい境地が開拓できるかも…。

16. これまでよりもねらいが、板書を一目見て分かるようになってきていると思います。子ども達の思考の傾向を考えながらこれからも工夫を続けていかなければと考えます。



6. 「保健」「安全」と「人権」について（⑥・⑦）

1. 保健・安全・人権、どのテーマもとても大事だと思う。学級では、安全ノートを使い、さまざまな安全に対する意識を高めようと取り組んでいる。また、避難訓練の時も、その都度安全に過ごすためのやり方を指導してきた。先日起こった小学5年生の誘拐事件の報道を通して、改めて、安全指導の大切さを感じた。また、校医の先生が「聴診器を当てただけでふらつく子どもが少なくない。まっすぐに立っていられない。子どもたちの遊びを含めた生活を見直す必要があるのではないか。」というお話を学校保健委員会の中でされておられたが、このお話を受け、今一度子どもの生活をまるごと見つめ直す機会をもつことが大切ではないかと思う。

また、いじめを始め、子どもたちの人権をどのように守っていくのか、人権意識をどのように培っていくのかという課題にも、積極的に取り組んでいかなければならないと思う。

2. 手洗い・うがいを常に意識して取り組ませている。給食後の歯磨きは必ずさせている。靴箱から教室までが近いので上靴を履かずにいることが多い。安全を考えて、声かけを続けていきたい。

言葉遣いが乱暴になったり、手足が出る時もある。言葉を通して意思を伝えられるようにしていきたい。相手を思いやる気持ち、相手の立場を考えて行動できるようにさせたい。

3. 低学年の子どもたちは保健や安全についての意識があまりないようで、「自分は大丈夫」と思っている子が多い。校舎内を走らないで歩くことの意味や大切さを何度も話しをすることで、言われなくても自分で気をつけることができる子が増えてきた。活動範囲が広がって「つい走ってしまった」という安易な行動が減るように、さらに指導していきたいと思う。

人権についても、あまり考えずに相手の気持ちを傷つけてしまう言動が時折見られる。そんな場面を見かけた時はすぐに「どうしていけないのか」ということを話すようにしている。まだまだ自己中心の考え方の子どもが多いので、相手の立場になって考えることができるようこれからも繰り返し指導していきたいと思う。

4. 姿勢が気になる子どもが少なからずいます。これには、昨今の子ども達の筋力が衰えていることが原因であるということを聞きました。そこで、私は子ども達に「姿勢をよくすることはトレーニングです。6年生が、皆背筋が伸びているのは、1年生の頃からトレーニングを積んできたからです。皆も6年生を見習ってトレーニングしよう。」と伝えています。子ども達はあこがれの6年生を目指して、背筋を伸ばそうとがんばっています。

5. 叱ることの5力条のトップに「きけんなこと」を入れているくらい、4月から口酸っぱく「危険なことをしないように」、「みんなの大切な命を先生は預かっているんや！」と日々児童に促しています。

また、5力条の中に「しつれいなこと」、学級目標の中に「人のいやがることをしない」を入れ、掲示したり、朝の会で唱和したりすることによって毎日意識付けをしています。

それでも、他人が嫌がることを言うことはあります。見逃さず、その時その時に根気強くていねいに指導することが大切だと思います。子どもの気を緩めっぱなしにしないことも大切だと思います。人権を大切にすることと、規範意識の徹底はつながると思います。

6. 給食当番は「エプロン・マスク・ぼうし」が基本であるが、教師がしっかりと統一して見本を示していったためか、多くの児童がその身だしなみに気をつけるようになったと感じる。姿勢はあまり良くないのが自分のクラスの現状だと感じる。いつも姿勢良くしている児童は数人にとどまっている。なにか良い姿勢の指導法があれば、すぐに言うようにしている。ただし、注意して直していくのではなく、良い児童を見本とするように前向きな指導を心がけたい。

また、避難訓練などは以前からしゃべったりふざけたりする児童も見られていた。担任として練習の大切さや本当に起こった場合のおそろしさなどを伝え、全力で取り組むことを伝えた。子どもたちも少しずつ臨み方に変化が見られ、一人ひとりがふざけず一生懸命に避難する姿が見られた。

保健・安全面は、日ごろおろそかにしがちなところであると思うが、根気強くこまめに指導していき、当たり前にできるようにしていかなければならないと思う。



7. 「保健」については、「姿勢を正す」ということを意識して取り組みました。年度当初、片足を椅子に上げて座っている子が多く見られましたが、ほとんど見られなくなりました。また、「椅子こぎ」もだいぶ減ったように感じます。課題としては、「立腰」は声をかけると一時的にはできますが、すぐに姿勢が崩れてしまうので、引き続き意識して取り組んでいきたいと思います。

「安全」「人権」については、子ども達は「わかっているけれど…。」というところが見られます。「安全」は毎月の安全ノート・日々の指導。「人権」については、日々何か気付いた時に、その場で指導していくことを心がけています。どちらも、学校だけでなく、学校の外でも大切なことです。自分の命は自分で守る、自分を人を大切にする。これらのことを行つても、どこでも自分で考え、判断し、行動できるよう子ども達を育てていきたいと思います。

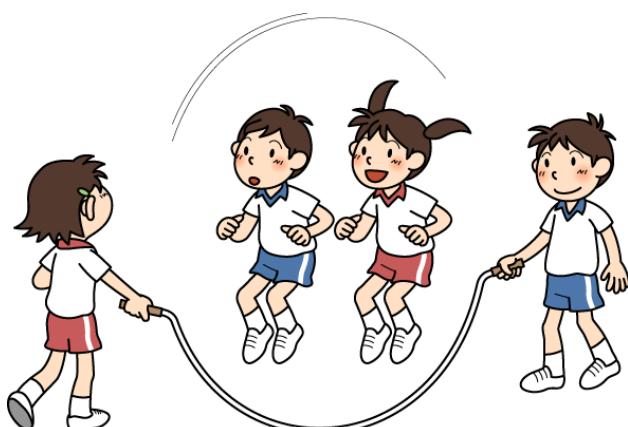
8. けが・事故にかかわることについては、ちょっとしたこと（教室でおんぶしていた等）でも厳しく指導し、子ども同士でも「自治意識」をもって過ごすよう指導しました。常時言っていたことは、「廊下は右側を歩こう」「上靴のかかとを踏みません」「階段は一段ずつ降りよう」「（廊下を）歩きます」と、「どうしてそうするか、分かる？」です。納得し、その上で自身の言動を自制できる児童になって欲しいと思います。

授業において「さんづけ」は徹底していますが、休み時間などの授業時間外において、それほど意識できていないように感じることが多いです。また、これは主觀かも知れませんが、授業内において、一部の指導者が児童を指名する際に「下の名前（あゆみさん など）」で呼んでいるのが気になります。「あれ？ 苗字じゃないの？」と思ったり、学校・授業はフォーマルな場だと思っている児童にとっては戸惑ったりしているのではないか…と思います。また（前の先生はこんな言わんかったのに、前の先生は親しく呼んでくれたのに等の理由から）担任がかわった際の余計なギャップになったり、不信感を抱いたりすることの一因になるのではないか…とも思います。

9. 「保健」については、家庭の内情もあって、なかなか生活も整えるのが難しいこともあります、できる限りの知識・情報をしっかりと伝えていくことが自分が今、子ども達のためにできることかなあと思います。

「安全」については、実際の話や映像などを利用してもよいし、ある程度の「恐怖」をしっかりと感じたり理解することが必要だと思います。災害も日々の行動への結果も。

「人権」のことは、憲法や難しいことは分からなくても、自分や人を大切にすることだけは、子ども達もわかっています。では、具体的に自分のどういう言動がそれにあたるのか、ひとつひとつ日常の中で、共に学んでいくのが、学校に来ている意味かなあと思います。



10. 人を傷つけるような言動があった際には、すぐに指摘し、今の言動はどうだったのかを振り返らせてきました。その結果、そうした言動は確実に減ってきています。しかしながら、ふとした時に、人を傷つけるような言動が見られることが少なからずあります。そうした時、「今の言動は良かった？ 良くなかった？」と問うと、「良くなかった」という答えがすぐに返ってくることがほとんどです。（子どもたちは、深く考えずに言ったりしたりしてしまっていることが多いと思われます。）そうした時に私たち大人が指摘しないと、子どもたちは「これでいい」と思ってしまいます。今後もしっかりとアンテナを立て、子どもたちの人権を守っていきたいと思っています。それとともに、人権を守るために大切なのは、子どもたちが一人ひとりの価値に気づくことができることだと考えます。どの子にも、良いところがたくさんあります。そうした良いところを全体の場で認める機会を増やしていくことで、子どもたちがさらにお互いの良さを認め合えるようにしていきたいと思っています。
11. 運動会の時は、たいへん暑く休憩をとるといった対応をしたことで、子どもたちも元気に過ごすことができましたが、学校評価：保護者版の中でも、暑さ対策について心配されている声が多くありました。この暑い時期には熱中症対策が必要になるので、子どもたちの様子をしっかりと見ながら、声をかけられるように、気を付けていきたいです。
- 人権については、「キモイ」や「あほ」など、相手のことを大切にしているとは思えない言葉を発することができます。その都度、相手がどのように感じるのか、そのような事をなぜ言ってはいけないのか、子どもたちに話をして、人権意識を高められるようにしていきたいです。そのためには、こちらが鋭い人権感覚を持っていなければ、見過ごしてしまう事があるので、自分自身も意識を高く持ち続けたいと思います。
12. 人権に関する「問題」も多様化・複雑化する現社会において、子どもたちには「答え」を教えるのではなく、いかなる問題にも主体的に解決していくこうとする主体性や積極性、価値観の多様性を感じることのできる想像力や思考力の素地を育てていきたいと考えています。
13. 三つの観点について、それぞれを大切にしながら日々学級指導はしていると思います。ただ、こちらがずっとずっと言うだけでは子どもたちは『また～』となってしまう可能性もあります。毎日のニュースの中で、子どもたちの身近にあるような内容の話をすることで、より興味関心を引き付け『ああ～なるほど…』と感じやすくなってくれると思います。
14. 楽しい学校生活を送る上で、全ての基盤となるのが、健康や安全、人権に関わることだと思います。行事や特別活動の時間はもちろん、休み時間なども子どもたちが意識して行動できるよう指導していきたいです。また、登下校時など様々な場面で見守ってもらっていることにも気づけるよう視野を広げ、けがなく、互いに思いやりながら過ごすことができるよう、自分で考え行動できる力を育てていきたいと思います。
15. 子どもの命を守りきる！ということを考えると食物アレルギー・アナフィラキシーに対して適切な対応がとれるよう研修を受けなければと思っています。
- 人権については、教育活動全体を通して教職員が一丸となって取り組み、家庭・地域をも巻き込んでいかなければならない問題だと思います。

16. 昨年度より、担任の先生方にも「正しい姿勢」を意識して指導に当たっていただいているが、今年度は「腰骨」を意識した指導で、学年問わず、いろいろな機会にいろいろな場所で「腰骨！」と指導している声を聞くことができ、本校に根付いてきた取組であると実感していると同時に、とてもありがとうございました。

ある朝会のことですが、5年生の女子2人が、最初から最後まで腰骨を立てて話を聞いていた様子が見られたので、朝会のあとに声をかけてみると、「どっちがいい姿勢でいられるか競争しててん。」と話してくれました。時間にして10分ぐらいのことでしたが、常に腰骨に意識して、話にも集中することは大人でもとても大変なことです。そのように取り組んでいる子どもたちの姿を見て、子どもたちにしてもらうばかりではなく、こちらから何かしてあげたいと思いました。

子どもたちにとって「正しい姿勢」が自分の体にどのような影響を与えるのかということは、結果がすぐに出るわけではないので、とても理解しにくいことだと思いますが、子どもたち自身が「正しい姿勢」の必要性を感じて生活に活かし、改善できるような学級指導や保健指導を考えていきたいと思います。

17. 基本的な生活習慣や学力の定着には、きちんとした姿勢の保持が重要であることは言うまでもない。今年度は健康の記録に『腰骨を立てる』の詩を掲示して担任の先生に毎朝読んでもらう取組をして子どもたちに意識づけを行っている。しかしながら、注意を喚起しなければ姿勢が乱れる場合も多いので、自発的に実践できるように指導していきたい。

避難訓練は以前と比べて静かに行動できるようになってきたが、まだまだ自覚が不十分で真剣さに欠けることも多いと感じるので、訓練の目的や必要性を事前にしっかりと伝えたい。

学校運営協議会でも話題にあがったが、高学年になると携帯電話をはじめネット社会の怖さを知っておく必要があると感じる。本校では、6年生が携帯教室の授業でネット社会のメリット・デメリットについて学習しているが、何より一番身近な保護者なお手本となるような使い方をすること（子どもたちにとってのいいモデルになること）が大切であると思う。

18. 人権については、日々意識していないといつも見過ごしてしまう恐れがあります。これからも日々意識していきたいと思います。安全についても、日々危険個所がないか子ども達の安全意識はどうかを考えていきたい。ろうかを走る子は、以前よりは減ってきているがまだまだある。より意識を高めていきたい。靴のかかとを踏む子が少し減ってきてていると感じている。ただ残念なことに、同じ子が踏んでいるのを見かけることがある。声かけを継続していきたい。

保健の面では、「腰骨を立てて」が子ども達にも教職員にも強く意識されてきている。夏休み明けには、もう一度意識できるように声掛けをしていきたい。



7. 家庭との連携について (8)

1. 子どもの生活をまるごとつかむことが、子どもの成長・発達を保障するうえでとても大切だと思っている。そのためにも保護者との連携を図り、子どもの状況をこまめにつかみ、情報を共有することが大切だと思う。その点で、保護者の方が毎日のように知らせてくださる子どもの様子は、とても役に立った。これからも、私自身が努力して、子どもの姿を保護者に伝えると同時に、保護者の方からも子どもたちの様子を伝えていただけるような関係を築きあげていきたいと思う。
2. 毎日連絡帳を交換している。子どもによっては保護者の送り迎えがあるので、その時に、学校での様子を伝えるようにしている。学校の様子を連絡帳に詳しく書いて保護者に伝え、家庭での子どもとの話し合いの参考にしてもらっている。保護者の方も家庭での様子を書いてくださり指導に役立っている。
3. 学年だよりでは、毎週の予定や行事・必要な持ち物などできるだけ丁寧に説明しているつもりだったが、保護者の方にうまく伝わらなかったこともあった。しっかりした計画や見通しを持って臨まないといけないと思った。連絡帳に書いてこられた相談には、できるだけ速やかに対応をするように心がけている。
4. 低学年は、手がかかることもあり、いろいろな面で保護者の皆様にはお世話になっています。音読を聞くこと、宿題を見てもらうこともそうですし、あさがおの観察を一緒にしてもらうことも大変なことだと思います。その分コミュニケーションをとる機会が増えると思ってもらって、今後とも、親の目を光らせていただけたらと思います。よろしくお願ひします。まだ、連携する場面が少なかったかもしれません、今後は学級懇談会等で意見交流を重ね、子ども達にとって過ごしやすい学校を共に作って行けたらと思っています。(森岡)
5. 「報・連・相」を常に念頭に置きながら、家庭とのやり取りをしているつもりです。教師側が「これくらいのことなら保護者に伝えなくても大丈夫だろう。」と思う時に限って望まない結果になることがあるので、伝えるべきかどうか吟味する時に、迷う場合は伝えるようにするか、管理職の先生と相談するように努めています。(当たり前のことですが…)
6. 何かあれば、家庭訪問や電話連絡を入れるなど、こまめに連絡を取り合うことができたと感じる。また、保護者の方々には参観日に限らず、きらめきタイムや選書会など様々な場面で学校に来ていただき、学校のこともよく知りていただける機会も本校は多いと感じる。学校と家庭が距離を感じてしまえば、進んで連絡も取り合おうとしない気がする。普段から、行きやすい、話しやすい、相談しやすい学校づくりをめざしていきたいと思う。宿題を毎度忘れたり、ていねいでない書き方で宿題を済ませる児童がいるため、その部分で各家庭と家庭学習の大切さをもっと話し合っていければいいなと感じている。

また、今年度は既に引き渡し訓練などが終わったが、タイムスケジュールが細かい行事が今後も出てくる。そんな時に、学校や各担任がわかりやすい情報を保護者に提供することに気をつけていかなければならないと思う。「よくわからない」という状況をつくらないようにしていきたい。

7. 各家庭との連携では、電話連絡や必要に応じて家庭訪問を行ってきました。連携の内容としては、何か起こった時に連絡を取るだけでなく、頑張ったこと・できしたことなどがあれば連絡を取ることをしました。ただ、全員にできたわけではないので、今後の課題として、少しでも多くの家庭に返していくことができればと思います。

また、学級通信として毎週のおたよりを出してきました。今年度より子どもたちの行事や学習・生活の様子を少しでも多く載せることを心がけてきましたが、まだまだ改善の余地あります。読みやすさ、内容などに気を付け、「おたよりが楽しみ。」と思っていただけるよう努力していきたいと思います。

8. 家庭での環境の変化などは、子ども達の学校生活にも大きく影響を及ぼすということ、今年もそれを痛感しているところです。何はなくとも、それを知っているということは、私にとって大切です。知っていることで、その時その児童に、少なくとも知らないよりは、より適切な把握や対応がとれると思います。

逆に、学校であったことも、子どもは思いの外、うまく伝えられてはいないように思います。特にうまくいったことやできるようになったことは、こちらがぜひお家の人に知ってもらってほめてほしいと思うことを、本人はさほど、家で言っていたりしません。友達とのトラブルやうまくいかなかったことも、言葉が足りず、誤解して伝わることもあります。こちらが先手を打って伝えることで、お家の人も子どもも、うれしくなったり安心できたりすることにつながるので、いつもできるだけ、広く早く、気をかけられるようにと心がけます。

9. 学級通信で子どもの様子や担任の考え方を伝えていくことで、保護者の皆様からも、おおむね好意的なご意見をいただいています。7月の個人懇談会では、「〇〇の話が非常に良かったです」と具体的に言っていただいた方が複数いらっしゃり、非常に嬉しく思いました。(ちなみに、一番多くの方から別々に「良かった」と言わされたのは、夢についての話です。——「夢は別になくてもいい。夢がない人は、目の前の人を喜ばせることを続けていけばいい。一説によると、夢を追う生き方が向いている日本人は、20%にも満たない。日本人の多くには、目の前の人を喜ばせていく生き方の方が向いている」。私が感銘を受けた内容が、保護者の方にも伝わったようで嬉しかったです。) いつも伝えたいことはたくさんあるのですが、限られた時間の中で伝えられる量には限りがあります。しかしながら、情報を発信することが、私自身の成長にもつながっているのは間違いないと存じます。(書きながら考えることで、自分の考えを「発見」し続けているので。) 今後も、少しでも有益な情報を提供できるように努めています。

10. 子どもたちの成長のためには、学校と家庭がうまく連携する必要があり、子どもを中心にはじめながら、お互いの立場で子どもたちに寄り添っていかなければいけません。嵐山東の保護者の方々はとても協力的な方々ばかりなので、担任が個人やクラスの方向性をしっかりと保護者に伝えることができれば、一緒になって子どもたちと関わることができると考えています。家庭訪問やおたより等でも伝えていますが、懇談会に多くの保護者の方に出席していただき、全体に伝えられるように、今後の懇談会出席のために工夫していく必要があると思います。

11. 学級通信を使って、子どもたちの様子をもっと発信できればよかったです。
12. 『学校から電話がかかってきた』となると、少しマイナスなイメージがありますが、よっぽどのことではない限り、基本的に子どものよい様子を電話を中心に伝えるようにしています。子どもの成長を保護者の方と一緒に喜びたいと思っています。一緒に喜びを分かち合うことで、学校と家庭の距離をより近づけていけたらうれしいなと思います。
13. 家庭訪問や個人懇談会などでお話をさせていただき、子どもたちにとってお家の方に認め励ましてもらうことがどれほど大きな力になるのかということを感じました。また、「嵐山東スタンダード」なども一緒に見て話してもらっているということもとても嬉しかったです。これからも学校と家庭・地域の大人たちがそれぞれ同じ方向を向いて、子どもたちと向き合っていきたいと思いました。
14. 定期的にクラスの事を伝える学級通信は、学校と家庭が共に子どもを育てるという思いが共有でき、素晴らしいと思います。
15. 家庭との連携というわけではないですが、今年度は毎週保健室からの子どもたちの様子や取組をHPで紹介するように取り組んできました。ただ、日々の取組とHPということが繋がっていないこともあるので、「アップしておけばよかったです…。」と後悔することも多々ありました。本校はHPを見てくださる保護者の方が多いので、どんどん保健室からも発信していけたらと思っています。
16. 預り金や就学援助で各家庭とのやり取りは生じるが、直接ではなく教員に間に入ってもらっての関わり方がほとんどなので、教員との連携を強化していくべきだと思う。お金に関わることなので家庭の事情や状況等、考慮することや知っておいてほしいことなど があれば事務室にも知らせていただければと思う。
17. 学校行事をはじめ学校で取り組んでいる様々な出来事は、できるだけリアルタイムに近い形でHPにアップしてお知らせしている。HPの更新回数も飛躍的に伸び（京都市1位）、今では毎日HPの閲覧を楽しみにしている保護者も増え、とても好評を博している。今の時代子どもを育していくためには、学校・家庭・地域が一体となって関わっていくことが必要で、そのためにもいろいろな情報を発信して、学校がどんなことに取り組んでいるのか知つてもういい、家庭や地域の理解と協力を得ることが大切だと思う。
18. HPで学校の様子を知らせ、興味をもってもらったりおうちでHPを通した会話が増えたりするようにしていきたい。連携の基本は、「フェイス・ツウ・フェイス」であることを肝に銘じて、これからも連携を図っていきたい。



8. 職場意識について (⑨)

1. 「子どもたちの人格の完成」をめざし、全教職員が一致して子どもの発達保障に向け努力していくことが大切であると考えている。そのために、引き続き、私も教職員の一人として努力していきたいと思う。
2. あいさつは誰に会っても必ず目を合わせてするようにしている。特に子どもにあいさつをする時は、かがんで子どもの目線に合わせて元気よくしている。
職務の遂行のための提出文書が多く、パソコンをうまく使いこなせてなくて時間がかかるので、提出に間に合うように早めに取り組むようにしている。
3. 自分なりには意識をして仕事をしているつもりだが、振り返ってみると、もっとうまく伝えられたのでは…、もっと早くできたのでは…、迷惑をかけてしまったなと思うことも多々あるので、これからも努力していきたいと思う。
4. 今里校長は「何かしてもらったら、リターンが大切だ」といつも言っています。まだまだ、リターンができないこともあります、去年と比べて、自分も皆さんもリターンを意識して行動しています。些細なことでもリターンし、感謝の意を伝えることで、前よりも職場の絆が深まったのではないかと感じています。
5. 朝、職員室に入ったら、みんなに伝わるようにあいさつをする。会議などの時間には遅れない。書類の提出期限を守るなど、当たり前のことを当たり前にする、また、子どもにふだん言っていることは自分もするということを意識して職務を遂行しています。(これも当たり前のことですが…)
6. 昨年に引き続き、時間厳守を大切にした。職場全体が時間に気をつけていたからこそ、朝会の集まりや会議の進め方もスムーズにすすんでいると感じる。
また、どんなささいなことであっても「報告・連絡・相談」を心がけるようにした。子どもたちをみんなで守り、指導するにあたって、「独断」で決断するよりも、より多くの意見を取り入れて進めていくことが大切だと考える。今後も大切にしていきたい。
学年間での話し合いも、綿密にていきたい。全てを共有していくことは大変だが、なるべく足並みをそろえてどのクラスの子も同じような成長ができるように心がけていく。
そして、どんな来校者にもあいさつをしっかりしていきたい。他のことに夢中になっていたり、焦っていたりすると、なかなかあいさつを自分からできないことがある。常に周りの様子を意識して、行動していかなければならぬと感じている。



7. 昨年度より、より良い嵐山東にするために、校長先生をはじめそれぞれの教職員が同じ目標に向かって進んでいることを感じます。子どもたちのためにより良い学校をめざしていくためにも、教職員が互いに気持ちよく仕事ができる環境を作ることはとても大切だと思います。

また、日頃の私たちの何気ない姿を子どもたちはよく見ていました。そういう意味でも、あいさつ・会話の仕方、気遣い、雰囲気作り、時間・決まりを守るなど意識してきたつもりですが、今後も引き続き意識していきたいと思います。

8. 遠方に行く際、研修の時間に間に合わなかったことがありました。「嵐山東小の一員」という自覚をきちんと持って、本校の不名誉になるような言動を慎みます。申し訳ございませんでした。

6年生の先生を中心として、あいさつを進んで行う姿勢を見せ、その姿を6年生が見て、当たり前のようにあいさつができるようになっている姿が印象的です。やはり我々が「こうするのだ」という姿勢を見せないと、よいモデルがないと、児童も変われないのだと思います。教職はサラリーマンではなく、「児童の人格形成に深くかかわる職業である」という自覚を今一度もち、襟を正して普段の言動を意識していきたいです。

9. 仕事や問題、出来事を、自分だけではなく、全体のこととして捉え、親身に考えたり、行動してくれる職員が多く、うれしく思います。大人でも、子どもと同じ、「人に優しく、自分に厳しく」をいつも気をつけなくては、と自分自身振り返り、「自分がされてうれしいことは、人にする」。大きくなっても、本当に大事なことは、単純で、でも忘れてしまいそうなことだなあと改めて思います。

10. 「元気な先生の姿が増えた印象」という保護者の方のご意見がありましたが、私自身もそのように感じます。職場がさらに明るく元気になったと思います。（それと同時に感じるのは、明るい保護者の方が増えたということです。保護者と教職員は、鏡のような関係にあるのだと思います。私が好きな言葉があります。「周りの人が優しくなったと感じるようになったら、あなた自身が優しくなった証拠。」）今後も、みんなで明るく元気な環境をつくっていけたらと思っています。

あいさつについて、「前より良くなってきた」というご意見の反面、「まだまだ不十分」というご意見もあります。どちらも、もっともだと思います。個人的な実感としては、保護者の方も子どもたちも私たち教職員も、総じて明るいあいさつをすることができるようになってきていると感じます。見かけたら先にあいさつするように意識をしていますが、子どもたちや保護者の方から、先にあいさつをされることも増えてきました。今後、さらにあいさつの輪が広がるよう、引き続き意識して取り組んでいきます。

11. 今年度から嵐山東小学校に赴任して感じたことの一つとして、教職員のあいさつがとてもすがすがしく、心地良いということでした。教職員間、子どもに対して、保護者に対して、地域の方々に対して、子どもたちの見本となるように、自ら積極的にあいさつをする姿を見ることができているのではないかと思います。自分自身も、心地良い職場づくりに貢献し、それが子どもたちにかえって行くような取組を今後も行っていきたいです。

12. 子どもたちの手本となれるよう、あいさつの励行に心がけた。学校中が明るくなったように感じる。続けていきたいです。
13. 6年生は学年目標にある『楽しむ時は楽しんで やるときややる』ということを大切にしながら毎日を過ごしています。『全員が完璧にできている状態』にはまだまだ程遠いですが、『あこがれられる6年生』をめざして日々の学校生活の中で、下級生のお手本となれるようがんばっていきたいと思います。
14. 子どもたちはとても大人の姿をよく見ていると思います。身近な大人である私たちのいきいきした姿や協力する姿が子どもたちの見本となれるよう、特にあいさつや時間を守ることなどを意識的に行っていきたいと思います。また、「自分から進んで」ということももっと意識していこうと思います。
15. 教育公務員としての自覚をしっかり持つこと、常に人の目を意識した生活を送ることを再度自分に言い聞かせています。
16. 「時間・期限を守る」などはおおむねできているとは思いますが、意識が足りずに教頭先生に指摘されて報告文書を提出することもあるので、常に意識し、提出期限ぎりぎりにならないように余裕を持って行動したいと思います。
17. 職員同士でのあいさつや会話は比較的できていると思う。児童に対しても昨年度に比べると少しあはれわりを持つようになったのではないかと思うし、児童もあいさつを返してくれる子が増えているので、嬉しく思う。今後はもっとしっかりと一人ひとりの顔を見て声をかけていくようにしたい。
職務に関しては教員の協力なくしてはできないことばかりで、お忙しい中で対応していくことになるので、期限等も猶予をもってお知らせをするなど、教員の負担をなるべく減らせるよう、業務の把握にいっそう努めたい。
18. 学校評価の結果を見てもわかるように学校は確実にいい方向に向かっている。その要因は何かと考えると、校長自ら強いリーダーシップを発揮して学校改革に取り組み、その姿を見て教職員の意識改革が起こり、「すべての子どもたちが学校が楽しいと思えるために」を合言葉に教職員が一致団結して取り組むようになったからだと思う。教職員同士のコミュニケーションが増え、チーム（組織）としてのまとまりが感じられるようになった。
19. 来校者へのあいさつや対応がよくなっていると思います。ただ残念なことに、いつもとはなっていないようにも感じています。いつも笑顔で来校者をお迎えできるように、みんなで意識していきたいと考えます。
保護者アンケートを読んでいて、一つの事柄に対してさまざまな考え方があることを再認識しました。教育公務員としての思いを保護者に伝えることも大切ですし、保護者の思いをしっかりと受け止め、自分を変えていくことも大切だと思います。自分を変えていくというのは、保護者や同僚の考えを咀嚼し、より良い取組をしていくことだと考えます。現状に満足することなく、より良い学校をめざしていかねばと思います。

9. その他 ①～⑨以外の内容で

1. 「嵐山東スタンダード」などを使って規範意識を低学年のうちにしっかりとさせること、高学年が低学年の良い見本となり、「あんなふうになりたい」と思われるようになることは、とても大事なことだと思う。いろいろな取組をしていることで、その方向に向かっていると思うので、このまま持続できるようにしていきたいと思う。
2. 校長、担任ともども、子ども達の日々の活動の様子が分かるようにホームページで様子をお知らせしています。あまり、見る機会が無かった方は、是非とも見ていただけたらと思います。よろしくお願ひします。
3. 私が本校に赴任してから、年々、子どもたちの規範意識が向上していると思います。それは、教職員一人ひとりが職場モラルの向上に努めている結果が一つ挙げられると思います。しかし、これからは子どもたちの自主性をもっと高めていく時期に来ているのではと感じています。なぜなら、言われたことはきちんとするけれども、教師の目がなかったり、指示がなかったりしないと動けない子どもが本校には多いように思えるからです。子どもの自主性を高めるために、全校や学年やクラスでどんな取組ができるのか、その方法を学びたいです。
4. 多くの教職員の皆様に、話しかけやすい雰囲気づくり、あたたかい職場づくりをしていたいと、本当に深く感謝しております。
5. 本校のPTA活動の素晴らしさに、いつも感銘を受けています。「本校のPTA活動は全市一番ではないか」という話を、しばしば教職員の間でしています。子どもたちのために、目に見えるところでも目に見えないところでも、たくさん活動してくださっていることを大変有り難く思っています。また、学校評価・保護者版でも、保護者の皆様が、「親が見本を見せたい」「親としても反省点がある」「私ができることは学校行事やPTA活動に積極的に関わることぐらいですが、何か他にできることができれば、やろうと思います」といったご意見を寄せてくださっていることを、非常に嬉しく思います。私が大切にしていることの一つに、「主体変容（＝自分が変わることで周りを変えていく）」があります。相手が99%悪いというような状況でも、まずは自分が変わる。相手が99.99%悪いというような状況でも、まずは自分が変わる。子どもたちと向き合う中で、子どもたちに変わってほしいことがあるのであれば、「自分は何をえることができるか」を考える。いつもいつもそのようにできる訳ではありませんが、今後も「主体変容」を意識しながら取り組んでいきます。いつも支えてくださっている／温かい声かけをしてくださる保護者の皆様に、この場を借りてお礼を申し上げます。いつもありがとうございます！（担任していない／したことのない保護者の方からもお声かけいただけるようになったことも、とっても嬉しいです。）引き続き、嵐山東小学校をよろしくお願ひします。



6. 児童・保護者・地域・教職員みんなが一体となって、嵐山東小学校区がもっともっと素敵な地区になれるよう、みんなで手を取り合っていきたいと思います。
7. 学校評価：教職員版を書くことで、自分の取り組みや子どもたちのことについて改めて見つめ直すことができ、大切な時間だなと感じました。一生懸命取り組むことと同じくらい、立ち止りふり返ることもまた大事なことだと思います。今後の取組に活かしていきたいと思います。
8. 教職員全員が同じ方向を向き、取り組もうとする姿勢があるので、とても気持ちよく働くことができる職場だと思っています。

